

レビュースシート

レビュー項目 (事業名)	地域楽農生活センター開設支援事業と田舎暮らし農園施設整備支援事業の発展的統合による楽農交流人口増加に向けた支援の充実(地域楽農生活センター開設支援事業)				部(局)	農林水産部	
					所管課	総合農政課	
					担当班	楽農生活班	
					連絡先	078-362-9198	
開始年度	令和元年度	終了年度	令和4年度	関連計画等	ひょうご農林水産ビジョン2030		
事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 国補助事業 <input type="checkbox"/> 県単独事業						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直執行 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> その他()				実施主体等	市町・JA等	
事業目的	<p>地域における楽農生活[*]の推進拠点(地域楽農生活センター)の開設の推進による、楽農生活実践者の拡大・楽農生活交流人口の増加</p> <p>※楽農生活：農作業体験や農山漁村との交流などを通して、もっと「食」や「農」に親しみ、より人間らしく豊かな暮らしを送ろうとする、本県が提唱する新たなライフスタイル</p>						
事業概要	<p>農業体験や野菜栽培講座の開催等により、農の学びや体験の場を展開する地域楽農生活センターの開設を支援</p> <p>○補助対象 市町・JA・市民農園運営者等</p> <p>○対象経費 楽農生活に関する情報発信や体験イベント・栽培講座開催に要する経費</p> <p>○補助率 1/2(補助上限：3,000千円、補助期間：2年間)</p>						
これまでの改善状況	(R4年度) ・補助対象に市民農園運営者等(農業者の組織する団体等、NPO法人、民間企業等の営利法人、自治会等の任意団体)を追加						
業務フロー	① 申請(市町・JA・市民農園運営者等) → ② 受付・審査(県) → ③ 交付(県)						
事業に要するコスト	区 分		元年度決算額	2年度決算額	3年度当初予算額	4年度当初予算額	
	事業費①		968千円	1,482千円	10,680千円	8,134千円	
	経 費 内 訳	報酬・賃金	0千円	0千円	0千円	0千円	
		委託料	0千円	0千円	0千円	0千円	
		補助金・交付金	968千円	1,482千円	10,500千円	7,700千円	
		貸付金	0千円	0千円	0千円	0千円	
		その他	0千円	0千円	180千円	434千円	
	(財源内訳)	(国庫)	(484千円)	(741千円)	(5,340千円)	(4,067千円)	
		(特定)	(484千円)	(0千円)	(0千円)	(0千円)	
		(起債)	(0千円)	(0千円)	(0千円)	(0千円)	
		(一般財源)	(0千円)	(741千円)	(5,340千円)	(4,067千円)	
	予算額② ※精算補正前の予算を記載		12,156千円	18,700千円	10,680千円	8,134千円	
	執行率((①/②)×100)		8.0%	7.9%	-	-	
	人件費③(a+b+c)		従事人員 0.3人	従事人員 0.3人	従事人員 0.3人	従事人員 0.3人	
			2,520千円	2,489千円	2,621千円	2,586千円	
	職員給与費 a	2,181千円	2,156千円	2,282千円	2,253千円		
	賞与引当金繰入額 b	175千円	174千円	175千円	174千円		
	退職手当引当金繰入額 c	164千円	159千円	164千円	159千円		
総コスト(①+③)		3,488千円	3,971千円	13,301千円	10,720千円		

レビューシート

評価	指標名	区分	元年度実績	2年度実績	3年度見込	4年度目標	最終目標【年度】
価値	成果指標(アウトカム指標①) 楽農生活交流人口(万人) [農林漁業体験施設等利用者数] (ひょうご農林水産ビジョン2030)	目標	1,140	1,150	1,108	1,121	1,224
		実績(見込)	1,108	855	(896)	(1,121)	【R12年度】
		(単位当たりコスト)	(3千円)	(5千円)	(15千円)	(10千円)	
		達成率(見込)	97.2%	74.3%	(80.9%)	(100.0%)	
指標	活動指標(アウトプット指標①) 地域楽農生活センター開設箇所数	目標	4	3	3	6	10(累計)
		実績(見込)	2	1	(1)	(5)	【R4年度】
		(単位当たりコスト)	(1,744千円)	(3,971千円)	(13,301千円)	(2,144千円)	
		達成率(見込)	50.0%	33.3%	(33.3%)	(83.3%)	
目標	終期設定	(有) (R4年度)					無
	改善基準	-					
自己評価	評価の視点	評価		目標に対する達成状況(総合的評価)			
	<p>○有効性(評価指標に対する実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県民ニーズを的確に踏まえた事業か ・民間での事業実施は見込めない事業か ・指標・目標設定は適切か ・活動実績は十分か ・想定された成果を達成しているか など <p>○効率性(最小のコストで最大の効果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務改革に取り組んでいるか ・コスト削減の工夫を行っているか ・ICTや民間活力は活用しているか ・受益者負担は適正か ・財源確保の工夫を行っているか など 	<ul style="list-style-type: none"> ・R3年度までに4箇所設置し、R4年度は5箇所設置予定であり、計9箇所の設置予定であり、目標である累計10箇所開設については、概ね達成できる見込である 	<ul style="list-style-type: none"> ・4年間で9箇所の地域楽農生活センターを設置し、概ね目標を達成できる見込である ・R2・3年度はコロナの影響で目標達成に至らなかったものの、回復基調であり、本事業により、県内各地において楽農生活の情報発信が図られ、楽農生活交流人口の増加に一定の効果が得られた ・楽農生活交流人口の目標達成に向け、コロナ禍で田園回帰の声が高まっている中、より多くの方が身近に楽農生活を実践できる場の提供が必要になっている 				
課題・今後の方向性	<input type="checkbox"/> 改善 <input checked="" type="checkbox"/> 他事業と統合 <input type="checkbox"/> その他						
価値	説明 () 楽農生活交流人口の増加に向け、地域楽農生活センターは概ね目標どおり開設できたこと、コロナ禍による田園回帰のニーズ増加を踏まえ、今後は、当事業とより身近に楽農生活を実践できる農林漁業体験施設の整備を支援する田舎暮らし農園施設整備支援事業を統合した上で、改善・拡充を検討						
外部委員意見	<ul style="list-style-type: none"> ・楽農交流人口増加に向けては、どうやって始めてもらうかなどが課題となる。始めてもらうには市町等のイベントと体験希望者等とのマッチングがうまくいっているかを確認する必要がある。 ・アウトカム指標が施策レベルの目標となっていることと、事業の最終目標がはっきりしていない。楽農生活の実践イメージとしている「買う・食べる」「体験する」「学ぶ・育てる」「田舎暮らし・就農確保」の各段階に分けて目標を設定すべき。 						
改善結果							
<ul style="list-style-type: none"> ・更なる楽農交流人口の増加に向け、より身近に楽農生活を実践できる農林漁業体験施設の整備等を支援するため、田舎暮らし農園施設整備支援事業に統合する。 ・統合後の事業では、事業者の策定した事業計画が、体験希望者のニーズに応じた体験内容やPR手段になっているかどうかを確認するとともに、実績報告時においても、市町等のイベントと体験希望者等とのマッチング状況についての報告を求め、それらで得た情報を新たな支援者や施策にフィードバックしていく。また、事業対象となる農林漁業体験施設におけるイベント体験者数を新たにアウトカム指標として設定する。 							

レビューシート

レビュー項目 (事業名)	地域楽農生活センター開設支援事業と田舎暮らし農園施設整備支援事業の発展的統合による楽農交流人口増加に向けた支援の充実(田舎暮らし農園施設整備支援事業)				部(局)	農林水産部	
					所管課	総合農政課	
					担当班	楽農生活班	
					連絡先	078-362-9198	
開始年度	平成28年度	終了年度	—	関連計画等	ひょうご農林水産ビジョン2030		
事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 国補助事業 <input type="checkbox"/> 県単独事業						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直執行 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> その他()				実施主体等	遊休農地活用者等	
事業目的	農山漁村への二地域居住・定住及び農林漁業体験施設の開設の促進による、地域活性化(地方創生)及び楽農生活の推進						
事業概要	二地域居住の促進や「農」に親しむ機会の創出等に向け、遊休農地等を活用した農園等の整備を支援 ○補助対象 遊休農地等を活用し、農園利用する者、農林漁業体験施設を開設する者等 ○対象経費 農園施設整備：ビニールハウス、トイレ、農機具庫、ベンチ等 空き家改修・農林漁業体験施設改修：水回り設備、内外装・屋根等改修工事 ○補助率 農園施設整備：1/2(補助上限:750千円)、空き家改修：1/3(補助上限:1,000千円) 農林漁業体験施設改修：1/3(補助上限:1,500千円)						
これまでの改善状況	(R3年度拡充) ・事業要件を遊休農地等取得後1年以内 → 5年以内に延長 ・対象施設を農業体験民宿 → 農林漁業体験施設※に拡大 ※農林漁業体験民宿、農林漁家レストラン、農林漁業加工体験施設等						
業務フロー	① 申請(事業者) → ② 受付・審査(県) → ③ 交付(県)						
事業に要するコスト	区 分		元年度決算額	2年度決算額	3年度当初予算額	4年度当初予算額	
	事業費①		1,750千円	4,224千円	16,678千円	10,933千円	
	経費内訳	報酬・賃金	0千円	0千円	0千円	0千円	
		委託料	0千円	0千円	0千円	0千円	
		補助金・交付金	1,750千円	4,169千円	16,500千円	10,750千円	
		貸付金	0千円	0千円	0千円	0千円	
		その他	0千円	55千円	178千円	183千円	
	(財源内訳)	(国庫)	(875千円)	(2,112千円)	(8,339千円)	(5,466千円)	
		(特定)	(875千円)	(0千円)	(0千円)	(0千円)	
		(起債)	(0千円)	(0千円)	(0千円)	(0千円)	
		(一般財源)	(0千円)	(2,112千円)	(8,339千円)	(5,467千円)	
	予算額② ※精算補正前の予算を記載		12,878千円	12,886千円	16,678千円	10,933千円	
	執行率((①/②)×100)		13.6%	32.8%	—	—	
	人件費③(a+b+c)		従事人員 0.4人	従事人員 0.4人	従事人員 0.4人	従事人員 0.4人	
			3,360千円	3,319千円	3,494千円	3,448千円	
職員給与費	a	2,908千円	2,875千円	3,043千円	3,004千円		
賞与引当金繰入額	b	233千円	232千円	233千円	232千円		
退職手当引当金繰入額	c	218千円	212千円	218千円	212千円		
総コスト(①+③)		5,110千円	7,543千円	20,172千円	14,381千円		

レビューシート

評価	指標名	区分	元年度実績	2年度実績	3年度見込	4年度見込	最終目標【年度】
	価値	成果指標(アウトカム指標①)	目標	1,140	1,150	1,108	1,121
楽農生活交流人口(万人) [農林漁業体験施設等利用者数] (ひょうご農林水産ビジョン2030)		実績(見込)	1,108	855	(896)	(1,121)	【R12年度】
		(単位当たりコスト)	(5千円)	(9千円)	(23千円)	(13千円)	
		達成率(見込)	97.2%	74.3%	(80.9%)	(100.0%)	
指標	活動指標(アウトプット指標①)	目標	—	13	13	13	13
	農園施設整備等の実施地区数 (地域創生戦略 事業KPI)	実績(見込)	2	(5)	(6)	(19)	【R6年度】
		(単位当たりコスト)	(2,555千円)	(1,509千円)	(3,362千円)	(757千円)	
		達成率(見込)	—	38.5%	(46.2%)	(146.2%)	
指標	活動指標(アウトプット指標②)	目標	2	2	2	2	2
	本事業で整備した農林漁業体験施設数	実績(見込)	0	0	(0)	(7)	【R6年度】
		(単位当たりコスト)	—	—	—	(2,054千円)	
		達成率(見込)	0.0%	0.0%	(0.0%)	(350.0%)	
目標	終期設定	(有) (R12年度)					無
	改善基準	実績が対前年比80%を下回った場合					
自己評価	評価の視点	評価		目標に対する達成状況(総合的評価)			
	<p>○有効性(評価指標に対する実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県民ニーズを的確に踏まえた事業か ・民間での事業実施は見込めない事業か ・指標・目標設定は適切か ・活動実績は十分か ・想定された成果を達成しているか など 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍における田舎暮らしニーズが高まる中、本事業はその実現の一助になる ・過去の実績は目標に達していないが、徐々に件数が増え、R4年度は19件要望があり、目標達成が見込まれる 		<ul style="list-style-type: none"> ・楽農生活交流人口等については、コロナ禍のR2・3年度は目標達成に至っていないものの、アフター(ウイズ)コロナの生活様式として、「田舎暮らし」へのニーズは高まっており、R4年度は目標を上回る要望がある状況である ・楽農生活交流人口の増加に向け、R3年度に農林漁業体験施設の対象を拡大したが、より一層の農林漁業体験施設の活用促進が必要である 			
価値	<p>○効率性(最小のコストで最大の効果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務改革に取り組んでいるか ・コスト削減の工夫を行っているか ・ICTや民間活力は活用しているか ・受益者負担は適正か ・財源確保の工夫は行っているか など 	<ul style="list-style-type: none"> ・県HPのバナー活用や市町への直接訪問などコストを抑えた事業PRを実施するなど、効率性を重視して事業を推進している ・事業者にも応分の負担を求めている(補助率1/2又は1/3) 					
	課題・今後の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 他事業と統合 <input type="checkbox"/> その他 説明 (楽農生活交流人口の増加により、さらなる地域活性化・楽農生活の推進を図るため、農林漁業体験施設改修について、開設当初の体験イベント等開催の支援といったソフト支援を追加するなど重点的な支援を検討)					
外部委員会意見	・楽農交流人口増加に向けては、どうやって始めてもらうかなどが課題となる。始めてもらうには市町等のイベントと体験希望者等とのマッチングがうまくいっているかを確認する必要がある。 ・アウトカム指標が施策レベルの目標となっていることと、事業の最終目標がはっきりとしていない。楽農生活の実践イメージとしている「買う・食べる」「体験する」「学ぶ・育てる」「田舎暮らし・就農確保」の各段階に分けて目標を設定すべき。						
改善結果							
・更なる楽農交流人口の増加に向け、より身近に楽農生活を実践できる農林漁業体験施設の整備等を支援するため、地域楽農生活センター開設支援事業を本事業に統合する。 ・統合後の事業では、事業者の策定した事業計画が、体験希望者のニーズに応じた体験内容やPR手段になっているかどうかを確認するとともに、実績報告時においても、市町等のイベントと体験希望者等とのマッチング状況についての報告を求め、それらで得た情報を新たな支援者や施策にフィードバックしていく。また、事業対象となる農林漁業体験施設におけるイベント体験者数を新たにアウトカム指標として設定する。							

レビューシート

レビュー項目 (事業名)	ひょうご安心・推奨ブランドの認証手続きの負担軽減 (ひょうご食品認証事業)				部(局)	農林水産部	
					所管課	流通戦略課	
					担当班	ブランド戦略班	
					連絡先	078-362-3486	
開始年度	平成16年度	終了年度	—	関連計画等	第5次兵庫県環境基本計画 ひょうご農林水産ビジョン2030		
事業区分	<input type="checkbox"/> 国補助事業 <input checked="" type="checkbox"/> 県単独事業						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直執行 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> その他()				実施主体等	県	
事業目的	BSEの国内初確認(H13.9)、牛肉産地偽装事件(H14.1)や鳥インフルエンザ発生(H16.2)等を背景に、食品に対する不安感・不信感が高まり、県産食品が持つ本来のおいしさ等が十分に評価されにくい状況に対応するため、県民に安全・安心で個性・特長のある県産食品を届けることを目的として、ひょうご食品認証制度を創設						
事業概要	(1) 兵庫県認証食品の認証 基準を満たす農畜水産物・加工食品の認証(ひょうご安心ブランド・ひょうご推奨ブランド)(年3回) (2) モニタリング検査 兵庫県認証食品の出荷・小売段階での残留農薬検査等のモニタリング検査の実施(新規・更新時) (3) 有識者会議の開催 認証のための専門的・技術的審査〔年3回×4部門(農・畜・水産・加工)〕、認証基準の検討等						
これまでの改善状況	・モニタリング検査対象農薬成分の絞込み モニタリング検査経費のコスト削減を図るため、検査対象農薬の絞込みを実施 ・兵庫県認証食品ロゴマークの変更(R2年度) 兵庫県認証食品の認知度向上を図るため、ロゴマークのデザインをはばタンに変更						
業務フロー	<ひょうご食品認証制度> ① 申請(農林水産物・加工食品生産者) → ② 審査(有識者会議) → ③ 認定〔認証期間3年間〕 + ④ モニタリング検査(新規・更新時に実施)						
事業に要するコスト	区 分		元年度決算額	2年度決算額	3年度当初予算額	4年度当初予算額	
	事業費①		9,227千円	9,249千円	7,222千円	7,222千円	
	経費内訳	報酬・賃金	648千円	789千円	1,269千円	910千円	
		委託料	4,206千円	4,410千円	3,730千円	3,800千円	
		補助金・交付金	0千円	0千円	0千円	0千円	
		貸付金	0千円	0千円	0千円	0千円	
		その他	4,373千円	4,050千円	2,223千円	2,512千円	
	(財源内訳)	(国庫)	(0千円)	(0千円)	(0千円)	(0千円)	
		(特定)	(0千円)	(0千円)	(0千円)	(0千円)	
		(起債)	(0千円)	(0千円)	(0千円)	(0千円)	
		(一般財源)	(9,227千円)	(9,249千円)	(7,222千円)	(7,222千円)	
	予算額② ※精算補正前の予算を記載		10,135千円	10,259千円	7,222千円	7,222千円	
	執行率((①/②)×100)		91.0%	90.2%	—	—	
	人件費③(a+b+c)		従事人員 0.9人	従事人員 0.9人	従事人員 0.9人	従事人員 0.9人	
			8,399千円	8,297千円	8,735千円	8,619千円	
職員給与費	a	7,271千円	7,188千円	7,607千円	7,510千円		
賞与引当金繰入額	b	582千円	580千円	582千円	580千円		
退職手当引当金繰入額	c	546千円	529千円	546千円	529千円		
総コスト(①+③)		17,626千円	17,546千円	15,957千円	15,841千円		

レビューシート

評価	指標名	区分	元年度実績	2年度実績	3年度実績	4年度目標	最終目標【年度】
	価値	成果指標(アウトカム指標①)	目標	39.0%	40.0%	41.0%	42.0%
兵庫県認証食品流通割合(%)(生鮮農畜産物) 〔第5次兵庫県環境基本計画〕		実績(見込)	39.5%	40.0%	40.7%	42.0%	【R7年度】
		(単位当たりコスト)	(44,623千円)	(43,865千円)	(39,206千円)	(37,717千円)	
		達成率(見込)	101.3%	100.0%	(99.3%)	(100.0%)	
指標	活動指標(アウトプット指標①)	目標	—	—	2,220	2,240	2,400
	兵庫県認証食品数(品目) 〔ひょうご農林水産ビジョン2030〕	実績(見込)	2,172	2,246	2,315	(2,240)	【R12年度】
		(単位当たりコスト)	(8千円)	(8千円)	(7千円)	(7千円)	
		達成率(見込)	—	—	(104.3%)	(100.0%)	
標	終期設定	有()・(無)					
	改善基準	—					
自己評価	評価の視点	評価	目標に対する達成状況(総合的評価)				
	<p>○有効性(評価指標に対する実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 県民ニーズを的確に踏まえた事業か 民間での事業実施は見込めない事業か 指標・目標設定は適切か 活動実績は十分か 想定された成果を達成しているか など 	<ul style="list-style-type: none"> 兵庫県認証食品数、兵庫県認証食品流通割合とも着実に増加し、県民の認証食品の認知度も高まっている〔県民モニターアンケート(認証食品認知度)〕 H28:41.5% → R3:50.3%[+8.8%] 	<ul style="list-style-type: none"> 兵庫県認証食品数は順調に増加している 食品数増加に伴う認証事務・モニタリング検査数が増大しているため、国の食品偽造防止に関する体制強化や生産者の法令遵守意識の高まり等を踏まえ、生産者・行政双方の事務負担軽減や効率的な執行に向けた改善が必要である 				
価値	<p>○効率性(最小のコストで最大の効果)</p> <ul style="list-style-type: none"> 業務改革に取り組んでいるか コスト削減の工夫を行っているか ICTや民間活力は活用しているか 受益者負担は適正か 財源確保の工夫は行っているか など 	<ul style="list-style-type: none"> HACCP取得の加工食品の製造所については、認証基準を満たしている施設として書類審査のみで対応(審査の簡素化) 認証事務の担当者研修会を開催し、申請事務・モニタリング検査等の円滑な実施に努めている 					
	課題・今後の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 他事業と統合 <input type="checkbox"/> その他					
外部委員会意見	<p>説明(認証事務負担軽減に向けた制度の改善(認証期間の延長[3年→5年])や増大するモニタリング検査費用の更なるコスト削減に向けた取組(推奨ブランド更新時の確認方法変更[検査→書面])を検討)</p>						
	<ul style="list-style-type: none"> 業務負担を軽減するには、業務プロセスを可視化し、整理することで圧縮できるので、業務の工数を減らすことを指標の一つにしても良い。 業務プロセスを、公務員しかできない仕事とそれ以外の仕事に分け、後者は外部委託やRPA等を活用すれば省力化が可能である。 本事業の認証期間の延長や、様式の簡素化等はまず着手すべき。 認証数が多いことで、ブランド価値がないのではないか。認証マークがあると高くても買うという状況が構築できていないと考えられるので、ブランド価値を上げる必要がある。 推奨ブランドと安心ブランドの違いなど、県民の多くは2つの区別がついていない可能性が高いと考えられるため、より認知してもらえよう更なる努力が必要である。 						
改善結果							
<ul style="list-style-type: none"> 認証期間の延長等(3年→5年、安全性担保)、様式の簡素化・業務の省力化を検討する。令和6年度からの運用に向けて、令和4・5年度にワーキング、有識者会議で検討を行う。 関西圏での認知度向上に向けて、西日本最大級の展示商談会に出展し、兵庫県認証食品のPRを行う。 モニタリング検査費用を削減するため、推奨ブランド(農産物)の更新時確認方法を検査から書面に変更した(実施済)。 							

レビューシート（目標設定）

事業名	県産農林水産物の流通・販売拡大支援事業 (県内スーパー・関西圏)				部(局)	農林水産部
					所管課	流通戦略課
					担当班	ブランド戦略班
					連絡先	078-362-9213
開始年度	令和4年度	終了年度	—	関連計画等	—	
事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 国補助事業 <input type="checkbox"/> 県単独事業					
実施方法	<input type="checkbox"/> 直執行 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> その他(一部協議会事業)				実施主体等	県等
事業目的	県産農林水産物の流通・販売の拡大を支援し、関西圏消費地での認知度向上・需要拡大を図り、県内の産地育成・生産拡大につなげる					
事業概要	(1) 県内広域配送モデルの形成 農協等による集荷・配送モデルルート構築の実証実験や店頭でのPR販売を支援(補助率1/2) (2) 県外新規市場の開拓 試行的に関西圏に出荷し、消費者や量販店等実需者のニーズを把握するマーケット調査を実施 (3) 関西圏外食チェーン店等と連携した県産品の活用促進 外食チェーン店等で県産食材を使用したメニューによる兵庫県フェアを開催					
令和4年度当初予算	8,183千円	(国庫) 4,091千円	(特定) 0千円	(起債) 0千円	(一般) 4,092千円	
評価指標	指標名	2年度目標	3年度目標	4年度目標	最終目標【年度】	設定の考え方
	成果指標(アウトカム指標①) 直売所・インショップの利用者数	—	—	3,220万人	3,460万人【R6年度】	認知度の向上により、利用者数の増を見込む [+120万人/年]
	成果指標(アウトプット指標①) 県産食材新規取扱い店舗数	—	—	15店舗	45店舗【R6年度】	広域配送モデルや県産食材フェア等の実施により、新規取扱い店舗数の増加を見込む [広域配送モデル+10店舗、県産食材フェア+5店舗]
	終期設定	有 () ・ (無)				
	改善基準	目標達成時				
外部委員会意見	・認知度の向上が事業目的なら、外食チェーン等での兵庫県フェアの開催日数をアウトカム指標にすべき。					
改善結果						
・外食チェーン等での兵庫県フェアの開催日数を新たにアウトカム指標として設定する。						